０８／０７／２０　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：ユダヤ人の過ち２
聖書箇所：ローマ人への手紙　２章２１節－３章８節

前回、私たちが見たように、このユダヤ人たちは自分たちは神のさばきに会うことはないと信じ込んでいました。その大きな過ちを犯していた彼らに、パウロはそのことを悟らせようとするのです。救われていると思っているけれど、実はそうではないということをパウロは彼らに教えようとするのです。彼らは三つの点において過ちを犯していました。一つは「律法に関して」でした。もう一つは「儀式に関して、特に割礼に関して」、三つ目は「彼らの不信仰」が問題でした。ですから、私たちが前回から見始めた、特にこの１７節からのみことばはユダヤ人に対するものです。けれども、確かにユダヤ人に対しての教えですが、私たち異邦人が聞いていても責められます。なぜなら、人間は本質的にみな同じだからです。人種や民族に関係なく、私たちはみな罪人です。同じような過ちを犯しているのです。今日のみことばも恐らく神がこのことばを祝してあなたの心に働いてくださるでしょう。そして、もしあなたの救いが定かでなければ、神があなたをこのすばらしい救いへと導いてくださることを願います。

救いに関してユダヤ人が犯していた過ち、その一つ目の「律法について」私たちは前回見ました。彼らは六つの間違った考えを持っていました。彼らはこのように言います。私たちはユダヤ人なのですと。そのように自分たちの民族を誇っていました。なぜなら、神によって選ばれたのは私たちだけだから、神が愛して神が喜んでおられる民、それが私たちだと、それが彼らの自慢でした。二つ目に、私たちには信頼できる律法が与えられている、この神のおきてが私たちに与えられたと、もちろん、彼らの間違いはそこに救いの根拠を置いたことでした。与えられているから救われていると思っていたのです。同時に、彼らは与えられた律法を自分たちは完全に行なうことができると思い込んでいました。ここに間違いがあったのです。三つ目に、自分たちは神と特別な関係をもっている、なぜなら、神が私たちを選んでくださり律法をくださったからだと言います。四つ目に見たことは、自分たちは神のみこころを知っている、神のみこころは私たちの前に明らかである、みこころが何であるかを見分けることができると、このように彼らは言っていました。そして、五番目に、自分たちは善悪を判断できる、優れたこと、なすべきことを吟味して、試した上でそれを判断することができる、善悪や適当不適当を見分けることができる、それが自分たちだと自負しているのです。六つ目に、私たちは異邦人に勝っている、自分たちが異邦人でなかったこと感謝しますと。この六つのことが、今、このパウロの教えの中でパウロが指摘したことです。あなたがたはこのようなことを信仰の、救いの根拠としていると言ったのです。それは間違っていると言います。そして、パウロはこれからユダヤ人たちが救われていない可能性が高いことを明らかにするのです。ユダヤ人に対して二つの批判をします。この点においてあなたがたは間違っているということを二つ示すのです。今日、私たちはそのことを見て行きます。

☆ユダヤ人に対する二つの批判　　２：２１－２４

１．あなたがたは偽善者である　　２１－２３ａ

２１－２３ａ**「どうして、人を教えながら、自分自身を教えないのですか。盗むなと説きながら、自分は盗むのですか。:22 姦淫するなと言いながら、自分は姦淫するのですか。偶像を忌みきらいながら、自分は神殿の物をかすめるのですか。:23 律法を誇りとしているあなたが、どうして律法に違反して、」**、救われていると思っているあなたがたは実は、偽善者であるとパウロは指摘したのです。パウロが言いたいことは、なぜ、あなたたちは律法をいただき律法を愛していると言いながら、ことごとく律法を犯しているのかということです。２３節に**「違反して、」**ということばがあります。これは「不従順」という意味をもったことばです。ですから、パウロはここで、ユダヤ人たちは守っていると言いながら実はその教えに従っていないと彼らを非難するのです。律法を人に教えていながら自分は守っていないと。イエスはルカの福音書でこのようなことを言って人々に警告を与えました。６：４６**「なぜ、わたしを『主よ、主よ。』と呼びながら、わたしの言うことを行なわないのですか。」**と。イエスが人々に対して、特に、４２節に**「偽善者たち。」**と言われているので、救われていると自負していながら実はそうでない彼らに警告したのです。また、群集と弟子たちに対してマタイ２３：３ではこのように言われました。**「ですから、彼らがあなたがたに言うことはみな、行ない、守りなさい。けれども、彼らの行ないをまねてはいけません。彼らは言うことは言うが、実行しないからです。」**と。イエスはこのようにして律法学者やパリサイ人たちの過ちを明らかにしたのです。彼らが言っていることは真実だけれど、問題はそれを実践していないこと、だから、彼らの行ないを見てはいけないと言うのです。彼らは偽善者なのです。パウロはここでその証拠を上げています。

◎偽善者であることの証拠

１）盗み

「盗むなと説きながら、自分は盗むのですか。」、人のものを盗むこと、同時に、神のものを盗むことも「盗み」だと教えています。旧約聖書のマラキ書に十分の一のささげ物のことが出て来ます。３：８－９に**「人は神のものを盗むことができようか。ところが、あなたがたはわたしのものを盗んでいる。しかも、あなたがたは言う。『どのようにして、私たちはあなたのものを盗んだでしょうか。』それは、十分の一と奉納物によってである。:9 あなたがたはのろいを受けている。あなたがたは、わたしのものを盗んでいる。この民全体が盗んでいる。」**、神のものを盗むことをマラキは私たちに言うのです。何を盗んでいたのか、十分の一をささげることがこの当時律法によって定まっていました。というのは、この十分の一は自分たちのものではなく神のものなのです。ところが、それをささげない人たちがいたのです。そこでこのようにみことばは警告したのです。あなたがたは神に属する部分をささげないで自分たちのために使おうとしている、すなわち、盗みを働いていると。もちろん、新約聖書を見たとき、私たちも同じように十分の一をささげるべきだという教えは出てきません。新約で教えられているのは、旧約の人々がこのように十分の一を、しかも心からささげることを命じられたなら、新約の私たちは神の恵みに対して喜んでささげ続けて行くことです。でも、少なくともみことばを見るなら、人のものを盗むことだけでなく神のものを盗むことも罪だと教えられているのです。ですから、私たちがどのように時間を使い、どのように自分に与えられているものを使い、どのように与えられている霊的賜物を使うかということも考えなければいけません。

２）姦淫

２２節に**「姦淫するなと言いながら、自分は姦淫するのですか。」**とあります。そのように彼らは教えていました。ところが、あなたがたはそのような罪を犯しているではないかとパウロは指摘するのです。ユダヤ人たちは実際にそのような行為をしないから自分たちは神の前に正しいのだと自負していました。そこで、イエスは山上の説教、マタイ５：２７－２８でこのように言われました。**「『姦淫してはならない。』と言われたのを、あなたがたは聞いています。:28 しかし、わたしはあなたがたに言います。だれでも情欲をいだいて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです。」**と、つまり、人間の基準と神の基準を明らかにされたのです。なぜなら、その当時の人々は、実際に行為を犯していないから自分たちは正しいと思っていたのですが、神が言われることは心の中でそのような思いを抱くだけですでにあなたは罪を犯していると、つまり、神の基準は私たちの基準よりはるかに高いということです。ユダヤ人たちは自分たちは罪を犯していないと言いました。ところが、パウロはあなたがたはそのように罪を犯しているではないかと言うのです。

３）着服の罪

２２節の最後に**「偶像を忌みきらいながら、自分は神殿の物をかすめるのですか。」**とあります。２１節には**「盗み」**とありました。一般的なものです。２２節では盗みの中でも特に着服すること、神殿から盗むことを具体的に上げています。この**「かすめる」**ということばは宮のものを盗むということです。ある人々は、この当時の人々はエルサレムの神殿から盗むこと、そのように盗みを働く人がいたのではないかと言いますが、この文章を見ると、**「偶像を忌みきらいながら、自分は神殿の物をかすめるのですか。」**ということですから、これはエルサレムの神殿のことではなく、偶像の宮のことでしょう。ですから、偶像が置かれている宮を忌み嫌っていながら、そこから物を盗んでいる、そのような人たちがいたからその人々を非難しているのです。なぜなら、そのことはみことばの中で禁止されているからです。申命記でモーセはこのようなことを人々に命じました。７：２５**「あなたがたは彼らの神々の彫像を火で焼かなければならない。それにかぶせた銀や金を欲しがってはならない。自分のものとしてはならない。あなたがわなにかけられないために。それは、あなたの神、主の忌みきらわれるものである。」**と、ですから、偶像を見てその偶像に使われている銀や金を欲しがってはならないと、そのような神のおきてがあるのです。恐らく、そのおきてを犯している人たちがいたのでしょう。ローマは非常に裕福なところでしたから、このような人々がいたのでしょう。ですから、パウロは「あなたたちは正しいと言うが実はそうではない。確かに、あなたたちは正しいことを教えている。でも、あなたたちはそれを守っていない。だから、偽善者なのだ」と言うのです。みことばを見ると、特にこのパリサイ人や律法学者に対して神のことばは厳しく彼らの行ないに迫っています。たとえば、バプテスマのヨハネのところにバプテスマを受けに来たユダヤ人たち、特に、パリサイ人やサドカイ人たちがやって来たときに、ヨハネはこのようなことを言っています。マタイ３：７－８**「しかし、パリサイ人やサドカイ人が大ぜいバプテスマを受けに来るのを見たとき、ヨハネは彼らに言った。「まむしのすえたち。だれが必ず来る御怒りをのがれるように教えたのか。:8 それなら、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。」**と、彼らのことを**「まむしのすえたち」**と呼んで非常にきびしいことを言っています。**「だれが必ず来る御怒りをのがれるように教えたのか。」**、あなたたちに待っているのは神の怒りであり、神のさばきであると言います。なぜなら、バプテスマのヨハネも知っていたのです。言って

いながら彼らは実践していないことを。だから、彼は**「悔い改めにふさわしい実を結びなさい。」**と言ったのです。つまり、実践しなさい、行ないによって示しなさいと言うのです。先ほど見たルカ６章にはイエスのおことばが続きます。偽善者の問題はどこにあるのか、**「なぜ、わたしを『主よ、主よ。』と呼びながら、わたしの言うことを行なわないのですか。」**（４６節）、イエスはその原因を知っておられます。人々は確かに真理を口にしていても行ないが伴っていないのです。勘違いしてはならないことは、私たちイエスを信じた一人ひとりは、神の教えを知って、神の教えに従おうとしながらも失敗することが多々あります。それが一度もないと言う人がいるなら、残念ながら、その人は偽善者です。イエス以外にそのような人はいないからです。悲しいことに、私たちは神のみこころを知り、神がこのようなことを望んでいると知っていながら、なかなか実践できないのです。でも、救われている人と救われていない人の違いは、心の中に神のみこころに従って行きたいという思いがあるかどうかです。しかも、救われている人は神の前にその助けを求め続けて行きます。ここでイエスは**『主よ、主よ。』と呼びながら**、つまり、神さま、神さまと言っていながら、神のことを話していながら、あたかも自分が救われているかのように言いながら、実は、神の教えに従っていない人々のことを言っています。彼らの心は完全に閉ざされているのです。神に従って行きたいという思いは救われている人に与えられるものです。ですから、救われていない人に神の前に喜ばれることをしようとか、神を求めようという思いはないのです。その理由をイエスはこのように教えます。ルカ６：４７－４９**「わたしのもとに来て、わたしのことばを聞き、それを行なう人たちがどんな人に似ているか、あなたがたに示しましょう。:48 その人は、地面を深く掘り下げ、岩の上に土台を据えて、それから家を建てた人に似ています。洪水になり、川の水がその家に押し寄せたときも、しっかり建てられていたから、びくともしませんでした。:49 聞いても実行しない人は、土台なしで地面に家を建てた人に似ています。川の水が押し寄せると、家は一ぺんに倒れてしまい、そのこわれ方はひどいものとなりました。」**このたとえはだれが聞いても分かります。土台をきちんと据えたかどうかということです。この後半に出て来る**「聞いても実行しない人」**、みことばを聞いてはいるけれどそれを行なって行こうとしない人、つまり、４６節で言うとおり**「わたしの言うことを行なわない」**人、その人は土台なしに家を建てた人だ、つまり、救われていない人だと言うのです。この話をイエスがなさったとき、言いたかったことは救いのことです。どんなに話を聞いていてもどんなにメッセージを聞いていても、どんなに聖書の学びをしていてもどんなに教会に長くいても、その心が開かれていなければ、その心がイエスを受け入れていなければ、救われていないと言っているのです。だから、みことばに従って行こうとしないのです。そのような思いがないからです。

もう一箇所見てください。ヤコブの手紙１章です。ヤコブのそのことを私たちにこのように教えてくれます。１：２２に**「また、みことばを実行する人になりなさい。自分を欺いて、ただ聞くだけの者であってはいけません。」**と同じことをヤコブも教えています。注意しておきたいことは**「自分を欺いて」**ということばです。これは「自分をだます」という動詞です。つまり、実際はそうでないのにそうであるかのように自分をだますということです。救われていないのに自分は救われているかのように自分を欺いているというのです。自分は霊的でないのに霊的であるかのように欺いているのです。そういう者であってはならないという警告がなされているのです。一番怖いことは、救われていない人が自分は救われていると信じ込んでいる場合です。私たちが何度も学んで来た通りです。というのは、みことばが何度もそのことを警告しているからです。そのような人々がいつの時代もどこの場所でも多いからです。ある伝道集会で私は手を上げました、聖書の中のどこにそれが救いだと書いてあるでしょう？何かのお祈りをした、それが救いを得る方法だと聖書のどこに書いてあるでしょう？私たちはある時にあのような告白をしたということに立とうとするかもしれません。でも、聖書が私たちに教えることは、神が救いをもたらしたなら、神がその人を救ったなら、その人は必ず変わるということです。神のおことばに従って行こうとするのです。ただ、みことばを聞いてそれを行なわない人ではなくて、みことばを聞いてそれを行なって行こうとするのです。失敗を犯してもそれを神の前に悔い改めてそれを実践して行こうとするのです。そのような変化がもたらされて初めて神が救ったと言うのです。そのことをみことばは私たちに教え続けてくれるのです。でも、多くの人々はそのような偽りの保証を与えるのです。私たちは偽りの保証を与えてはいけないのです。もし、彼らがだまされてそのように思い込んで永遠の地獄に行ってしまうなら、取り返しがつきません。聖書は明らかに、本当に救われている人がどのような人かを教えています。今、私たちが見ているパリサイ人、サドカイ人、律法学者たち、多くのユダヤ人たちは、自分たちが救われているというその根拠は聖書的ではなかったのです。彼らはただそのように信じ込んでいたのです。そして、彼らはそのようにして自分をだましていたのです。ユダヤ人だから、律法をもらっているから、我々は特別なのだから…と。今の私たちもそのように言うかもしれません。神はこんなに祝してくださっているから私は救われている、私はこのような家庭に生まれ育ったから救われている、幼い頃から両親が私を教会に連れて来てくれたから私は救われている、毎日家でみことばを聞いたから

私は救われている、私は聖書を通読しているから救われている、私は教会でバプテスマを受けたから救われている、私は教会のメンバーになったから救われていると、もし、このようなことに救いの根拠を置いているなら見直さなければいけません。私はイエス・キリストを私の救い主、私の主と信じて、この方に従って行く決心をした、みことばが教える福音を私は信じた、そして、神が私のうちに働き私を変え続けてくださっている。だから、私たちは言うのです。うちにある聖霊が私たちといっしょになって証をするのです。あなたには救いが与えられていると。それは人から説得されてその確信にたどり着くのではありません。私たちの内側からその確信が出て来るのです。「神さま、救ってくれてありがとう！」と。人から言われるものではありません。

ヤコブが私たちに教えてくれたことは、みことばを実行する人、それはその人たちが救いをいただいているからです。Ｉヨハネの手紙でヨハネはこのように言っています。２：３－６**「もし、私たちが神の命令を守るなら、それによって、私たちは神を知っていることがわかります。」**と、ヨハネも言っています。**「神の命令を守る」**こと、それが証拠だと言うのです。**「:4 神を知っていると言いながら、その命令を守らない者は、偽り者であり、真理はその人のうちにありません。:5 しかし、みことばを守っている者なら、その人のうちには、確かに神の愛が全うされているのです。それによって、私たちが神のうちにいることがわかります。:6 神のうちにとどまっていると言う者は、自分でもキリストが歩まれたように歩まなければなりません。」**、このように歩もうとしている人たちです。

パウロが最初にこのユダヤ人たちに警告したこと、彼らを非難したことは「あなたたちは偽善者だ」ということです。語っていることは正しいけれど、あなたたちはそれをやっていないと。

２．神の栄光を汚している　　２３ｂ－２４

２３ｂ－２４**「神を侮るのですか。:24 これは、「神の名は、あなたがたのゆえに、異邦人の中でけがされている。」と書いてあるとおりです。」**、この**「侮る」**というのは「名誉を汚す、辱める」ということです。その人の思い、その人のことば、その人の行為をもって辱める、名誉を汚すということです。神の栄光を汚そうとするなら、神の栄光を台無しにしようとするなら、私たちは罪を犯せばいいのです。神に逆らえばいいのです。そうすれば私たちは神の栄光を現わすことはありません。パウロの指摘はそのような生き方をこのユダヤ人たちがしているということです。なぜなら、彼ら自称クリスチャンと言う人たちがその生きる様は、どのような神を信じているのかを世の中の人に明らかにするのです。私たちがこのような神を信じていると言ったとき、人々はそれが本当かどうか私たちを見るのです。神が全能だというなら、私たちがどんなときにも信頼をおいて安心して平安のうちに歩んでいるかどうかを見るのです。そのように言いながら、私たちがあわてふためいているなら、いろいろなことで不安を抱えて心配しているなら、私たちが人々に行ないをもって証している神は全能ではありません。どんなことでもできる神だと言っていながら、この件は別だと言っているのです。神は聖いお方だと言います。私たちはどのように生きているかによってそのことが明らかにされるのです。このユダヤ人の問題は彼らが罪に罪を重ねていたことです。エゼキエル３６章をご覧ください。１６節に**「次のような主のことばが私にあった。」**と記されています。１７節**「人の子よ。イスラエルの家が、自分の土地に住んでいたとき、彼らはその行ないとわざとによって、その地を汚した。」**と、エゼキエルに対して神が言われたこと、イスラエルの人たちが約束の地、カナンに住んでいたときに彼らが何をしたのか、そのことが記されています。彼らは**「行ないとわざとによって、その地を汚した」**、すなわち、罪を犯していたと言うのです。彼らは神に従うことなく自分の好き勝手に生きて神の前に罪を犯し続けていたのです。あの約束の地カナンにいたときに。また、１８節**「それでわたしは、彼らがその国に流した血のために、また偶像でこれを汚したことのために、わたしの憤りを彼らに注いだ。」**、カナンの地にいたイスラエル人は偶像にも心を奪われていたのです。偶像を崇拝して真の神に対して罪を犯していたのです。その結果、どうなったでしょう？１９節**「わたしは彼らを諸国の民の間に散らし、彼らを国々に追い散らし、彼らの行ないとわざとに応じて彼らをさばいた。」**、バビロンによる捕囚です。彼らの罪を神はさばかれ、バビロンへ捕囚として彼らは引いて行かれたのです。同時に、その迫害をきっかけに様々なところに散らばって難を逃れて行った人々もいるのです。２０節**「彼らは、その行く先の国々に行っても、わたしの聖なる名を汚した。人々は彼らについて、『この人々は主の民であるのに、主の国から出されたのだ。』と言ったのだ。」**、主がエゼキエルに言ったことを考えてみてください。神が言われたことは「このイスラエルの民は捕囚前もわたしに逆らい続けわたしに対して罪を犯し続けていた、そして、わたしがさばきを与えたときに彼らはいろいろな所に散って行ったけれど、そこでもなおわたしの前に逆らい続けた」ということです。その結果、周りの人々が彼らに対して、また、彼らの神に対して侮辱するのです。**『この人々は主の民であるのに、主の国から出されたのだ。』**と言って嘲るのです。神の民ではないのか？全能の神と言いながら今彼らは敵に敗北している、いったい、彼らの神はどこにいるのだろう、この不幸な人々は**「主の国から出された」「主の民である」**と。主の民を嘲る群集の声が聞こえるようです。

神の前に忠実に生きた人々は世にこのような証をしなかった。ヨシュアがイスラエルの民を率いて約束の地に入ろうとしたとき、二人の斥候を前もってその地に送りました。彼らがラハブという遊女のところに行ったとき、ラハブは興味深いことを彼らに告げるのです。ヨシュア記２：９－１１**「その人たちに言った。「主がこの地をあなたがたに与えておられること、私たちはあなたがたのことで恐怖に襲われており、この地の住民もみな、あなたがたのことで震えおののいていることを、私は知っています。:10 あなたがたがエジプトから出て来られたとき、主があなたがたの前で、葦の海の水をからされたこと、また、あなたがたがヨルダン川の向こう側にいたエモリ人のふたりの王シホンとオグにされたこと、彼らを聖絶したことを、私たちは聞いているからです。:11 私たちは、それを聞いたとき、あなたがたのために、心がしなえて、もうだれにも、勇気がなくなってしまいました。あなたがたの神、主は、上は天、下は地において神であられるからです。」**、主に従った人を主が用いたとき、人々の中に神はすばらしいわざを為されるのです。人々はあなたがたの神が真の神だと言って恐れたのです。ギデオンはどうだったでしょう？なかなか神の召しを受けることができなかった、でも、神の召しに従って彼は出て行きます。敵は海辺の砂のようだった、数え切れないほどの敵を前にしたギデオンは、戦う前に敵陣に入って行って様子を見ます。士師記７章にこのように記されています。仲間の一人が見た夢のことを聞いた人がこのように言います。７：１４**「それはイスラエル人ヨアシュの子ギデオンの剣にほかならない。神が彼の手にミデヤンと、陣営全部を渡されたのだ。」**と、そのように彼らに神が恐れを与えたのです。ご存じのように、このミデヤン人を初めアマレク人たちは根絶やしにされるのです。神に従ったとき神は彼らを用いて神ご自身のご栄光を現わされたのです。

最後に、ダニエル書に記されている勇者たちのことを思い出してみてください。ネブカデネザル王が金の像を立ててその像を拝まなければならないとしたとき、拝まないとしたのはあのシャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの三人の勇者たちでした。王は怒って普段よりも炎の火を熱くしてその中に彼らを投げ込みます。ところが、彼らは焼け死ぬこともなく彼らの衣が燃えることもなかったと言います。そこでネブカデネザル王が彼らをその炎の中から呼び出したとき、このようなことを言います。ダニエル３：２８－２９**「ほむべきかな、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの神。神は御使いを送って、王の命令にそむき、自分たちのからだを差し出しても、神に信頼し、自分たちの神のほかはどんな神にも仕えず、また拝まないこのしもべたちを救われた。:29 それゆえ、私は命令する。諸民、諸国、諸国語の者のうち、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの神を侮る者はだれでも、その手足は切り離され、その家をごみの山とさせる。このように救い出すことのできる神は、ほかにないからだ。」**、異教の国に住むこの一人の王は彼らの信仰を見て、また、彼らのうちに働かれる神を見て**「このように救い出すことのできる神は、ほかにない」**と言ったのです。ダリヨス王はどうだったでしょう？王以外のものを拝んではならないという命令が出たとき、ダニエルは拝み続けました。ライオンの穴に投げ込まれて、次の日、ダリヨス王はダニエルを捜しに行きます。そして、獅子の口から守られていたダニエルを見てこのように言います。６：２６－２７**「私は命令する。私の支配する国においてはどこででも、ダニエルの神の前に震え、おののけ。この方こそ生ける神。永遠に堅く立つ方。その国は滅びることなく、その主権はいつまでも続く。:27 この方は人を救って解放し、天においても、地においてもしるしと奇蹟を行ない、獅子の力からダニエルを救い出された。」**、こういう勇者たちを神はお使いになったのです。神を愛して神に従う者たちを神はお使いになって神の栄光を現わしたのです。ところが、イスラエルの民は不信仰ゆえに神に逆らうゆえに、その栄光を汚してしまったのです。イスラエルの民が選ばれたのはこのイスラエルの神が真の神であることを、周りの人々に明らかにするためでした。ところが、彼らは神の名を汚し間違った神を人々の前に示したのです。だれがその神を見て心惹かれるでしょう？だれがそのイスラエルの神を見て心に渇きを覚えるでしょう？

ローマ２：２４には**「神の名は、あなたがたのゆえに、異邦人の中でけがされている。」**とイザヤ書５２：５のことばを引用しながら、特に、ヘブル語をギリシャ語に翻訳した７０人訳から、このことばが引用されているのです。今、私たちが見て来たこと、神が特別に選び神の栄光を現わして人々に渇きを与え、人々を神の許へと導くために選ばれたユダヤ人たちが、その神の名を汚していたのです。そのような生き方をしているあなたたちがどうして救われていると言えるのか？とパウロは言います。パウロは彼らの偽善を見抜いていました。彼らが偽善者であることを知って彼らを非難するのです。あなたたちは間違っていると。そして、神のあわれみに立ち返るように、神の救いに心開いてその救いを受け入れるようにと彼は勧めるのです。

前回、私たちは見ました。ユダヤ人たちはこのように異邦人たちに責任を負っていると、四つの責任がありました。２：１９－２０**「また、知識と真理の具体的な形として律法を持っているため、盲人の案内人、やみの中にいる者の光、愚かな者の導き手、幼子の教師だと自任しているのなら、」**、**「盲人の案内人」**である、霊的に盲人の人たち、創造主なる神について何も分かっていない彼らを教えなければならない、それが自分たちの責任だと思っていました。二つ目に、彼ら異邦人は**「やみの中にいる者」**たちである、罪の中を歩んでいる者たちであると言いました。三つ目に、異邦人たちは**「愚かな者」**である、真理に関して分

別がない者たちであるから、彼らを矯正して正しく教え導いて行かなければならないと思っていました。そして、四つ目に彼らは**「幼子」**、未熟な者たちだから彼らを教えて行かなければいけないとしていたのです。このようにユダヤ人たちは自分たちは異邦人に対して責任を負っていると言っていたのです。おもしろいことは、パウロはそのことについて否定していません。ということは、確かに、ユダヤ人たちはそのような責任をもっていたのです。神を知らない人々に神を教え正しく導き、彼らを成長させて行くという、その責任をユダヤ人に最初託されたのです。しかし、彼ら自身が神を信じることなく神に逆らい続けてその責任をまったく果たすことがなかったのです。ことばでは分かっていましたが、それを実践していなかったのです。

最後に、クリスチャンの皆さん、この責任はまた私たちの責任ではありませんか？この責任はユダヤ人だけの責任ではありません。もし、私たちがイエス・キリストを信じてこの救いに与っているなら、私たちは周りの人たちに対してこの責任を負っているのです。周りの人々は真理が分からない、霊的に盲目だから、私たちは真理を教えなければなりません。このすばらしい創造主なる真の救い主なる神を伝えて行かなければならない。彼らは罪の中にいるのです、このイエス・キリストによって罪が赦されるということを伝えて行かなければいけない。彼らはまだ真理に対して分別がつかない、だから、真理はこれであると教えなければいけない。そして、正しく導いて行かなければいけない。彼らが成長するように。だから、イエスはこのように言われたのです。マタイ５：１６**「このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせ、人々があなたがたの良い行ないを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようにしなさい。」**、神が私たちクリスチャンに望んでおられることは、神のあわれみによって私たちがこの地上で正しく主に従って生きて行くことによって、私たちの主の証をすることです。イスラエルにはその目的が与えられていたのです。しかし、彼らはそれをまったく無視して間違った神を人々に示したのです。神の栄光を汚していたのです。私たちはそのようなことをしていないかどうかです。クリスチャンである皆さん、あなたは罪の中を歩んでいませんか？あなたは不信仰の中を歩んでいませんか？神のことばはそうだけれど私はそれに信頼することができないと言って不信仰の中を生きていませんか？もう一つ、あなたはどのような神を人々の前に証していますか？人々に心の渇きをもたらすようなそのような生き方をしていますか？神はそのことを望んでおられるのです。神はそのようにあなたを使ってくれるのです。もし、そのような歩みをしていなければ、今日、神の前に悔い改めて、今日からそのような働きを為す信仰者として、神の栄光を現わす信仰者として歩む決心をして歩み始めることです。イスラエルは悲しいことにそうしなかったのです。でも、神が望んでおられることは変わっていません。この世の人々にこのキリストに救いがあること、キリストに希望があることを伝えて行くのです。その務めを神は私たち信仰者にくださったのです。この神のすばらしい栄光を現わすことです。それが救われたあなたに神が与えた大きな責任です。それを果たしておられますか？そのように生きておられますか？そのように生きようと願っておられますか？